

三好市の祭礼山車

民俗班（徳島地域文化研究会）

高橋 晋一*

要旨：三好市の祭礼に見られる山車の悉皆調査を行い、その全体像を整理した。三好市においては、「だんじり文化」の基層の上に、県境を越える「太鼓台文化」の影響が重なり、「だんじり」と「太鼓台」を核とする独自の地域性を持つ山車文化が形成されていることを明らかにした。川舟型の船だんじりの事例を含め、三好市の地理的環境が当地の山車文化の形成に大きな影響を与えていていると言える。

キーワード：祭礼、山車、だんじり、太鼓台、川の文化

1. はじめに

三好市の祭礼に出る山車については、町村史や調査報告の中に断片的な情報が確認できるものの¹⁾、その全容についてはこれまで明らかにされていなかった。本稿の目的は、現地での聞き取り・観察調査をふまえ、三好市の神社祭礼に見られる山車の全体像と特色を明らかにすることにある。

2. 三好市の祭礼山車の概況

1) 山車の分布状況

筆者の行った現地調査に基づき、三好市の祭礼に見られる山車の情報をまとめたのが表1である。廃絶・休止したものも含め、山車の存在が確認されたのは、旧三野町13ヶ所、旧池田町23ヶ所、旧山城町3ヶ所、旧井川町4ヶ所、旧東祖谷山村4ヶ所、旧西祖谷山村1ヶ所、計48ヶ所となっている。

山車の実数については、同じ山車が複数の神社祭礼に出る事例もいくつか見られることから、それらを重複して数えないように整理すると、旧三野町12台、旧池田町28台、旧山城町7台、旧井川町5台、

旧東祖谷山村4台、旧西祖谷山村1台、計57台となる。山車の分布という点から見ると、旧西祖谷山村（1ヶ所・1台）は、徳島県内旧50市町村の中でもっとも少ない（旧50市町村における山車分布箇所の平均値は12.7）。旧山城町、旧井川町、旧東祖谷山村も少ない方であり、三好市は、旧三野町・旧池田町を除き、集落の数に比して山車の数が少ない地域と言える。これは、集落の人口規模や山間部ゆえの急峻な地形、道路事情等の影響もあると思われる。

2) 山車の形態

徳島県内における山車の形態は、表2のように分類される²⁾。これらのうち、曳くタイプの山車である「だんじり」と、担ぐタイプの山車である「屋台」の2種類が県内の山車の大多数を占め、「小型屋台」「太鼓台」「船型だんじり」「山鉾」がそれに次ぐ。

表2に、これらの山車の地理的な分布状況の特色についてもまとめている。「だんじり」は主に県西・県南・県北（吉野川下流域）、「屋台」「小型屋台」は主に県北（吉野川中下流域）、「船型だんじり」は県東海岸地域、「太鼓台」は県西・県南の一部地域に分布し、「山鉾」は海部郡海陽町久保の八阪神社のみに

* 〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 takahashi.shinichi@tokushima-u.ac.jp

見られる。各タイプの山車は、かなり明確に分布域が分かれている。

表1をふまえ三好市における山車の形態の種別を見ると、「だんじり」36台、「太鼓台」（ちょうさ）19台、「小型屋台」（よいやしょ）1台、「船型だんじり」（船だんじり）1台となっており、「だんじり」が全体の63.2%を占め、「太鼓台」が33.3%とそれに次いでいる。以下、三好市の各タイプの山車についてさらに検討していきたい。

3. 三好市の祭礼山車の特色

1) 三好市の「だんじり文化」

前項で触れたように、徳島県内では、県西・県南・県北（吉野川下流域）に「だんじり」が集中して分布している。同じ県西部でも美馬市以東は「屋台文化圏」となり、三好市は東みよし町とともに、だんじりを山車の基本とする県西の「だんじり文化圏」の核心を構成していると言つてよい（写真1）。



写真1 だんじり（三野町芝生・武大神社祭礼）

同じだんじりでも、県西のだんじりは5人乗り（大太鼓1・小太鼓2・鉦2）が基本で、県南のだんじりは9人乗り（大太鼓1・小太鼓2・鉦2・大鼓

2・小鼓2）が基本である。後者は鼓の掛け合いを含む「拍子」と呼ばれる複雑な囃子を有しているが³⁾、県西のだんじりの囃子のリズムはシンプルである。三好市のだんじりは5人乗りで、県西のだんじり文化圏の特色をよく表している。

2) よいやしょと「屋台文化圏」への接合

「小型屋台」は、三好市内では三野町清水に見られるのみである（現地では「よいやしょ」と呼ばれる）。清水は三野町の東端に位置し、美馬市美馬町と境を接している。美馬地方の山車は「屋台」「小型屋台」（担ぐタイプの山車）が優勢であり、その影響を受けて清水によいやしょが導入されたと考えられる。同地は徳島県における「だんじり文化圏」「屋台文化圏」のコンタクトゾーンと言える。

3) 船だんじりと吉野川文化

徳島県内の船型だんじりは、ほとんどすべてが県東海岸地域に分布するが、和靈神社（池田町新地）の「船だんじり」は内陸部の事例として注目に値する。同神社の船だんじりは、池田町中心部の総氏神である医家神社、及び吉野川の川湊に近い諏訪神社の秋祭りの際、近隣他地区のだんじり5台とともに地区を巡行していた。船だんじりの本体は喫水の浅い川舟型である⁴⁾。

池田町中心部のすぐ北側には、四国三郎と称される大河・吉野川が東西に流れている。かつて吉野川は、阿波の東西をつなぐ交通の大動脈であった。川筋には多くの川湊があり湊町を形成していたが、池田の町も川湊に連なるように発達した。諏訪神社下の千五百河原にあった「はまの湊」は江戸時代から大正時代にかけて栄えた⁵⁾。

以前は農家でも対岸に耕地があり、農作業の往復や収穫物の運搬などのため小舟を持っている者が多かった。そのため舟の需要はきわめて多く、舟の製作・修理にあたる舟大工が各地に数多くいた。また吉野川は古くから鮎漁が盛んで、鮎川舟（カンドリ舟）の需要も多かった。こうした川の文化・川舟の文化の存在が、和靈神社の川舟型だんじりが生まれる背景となったと言える。

4) 太鼓台と「県境の民俗」

三好市の山車の最大の特色は、「ちょうさ」「太鼓」などと呼ばれる、座布団を重ねたような屋根の担ぐ



写真2 ちょうさ（山城町大月・四所神社祭礼）

タイプの山車（太鼓台）が多く分布している点にある。筆者は徳島県内で16ヵ所32台の太鼓台の存在を確認しているが、三好市の事例は11ヵ所19台に及ぶ。なお、三好市内でも太鼓台の分布は山城町及び池田町の一部に限られる（写真2）。

近世後期に上方に生まれたとされる太鼓台は、18世紀後半から19世紀前半にかけて、海上交通の発達とともに西日本各地に伝播していった⁶⁾。四国では香川県・愛媛県の瀬戸内海沿岸地域を中心に密に分布している。三好市内の太鼓台を有する地域で聞き取り調査を進めた結果、多くの地域で明治～大正頃（一部は近世末）に伊予（東予）または讃岐（西讃）から中古を購入もしくは譲り受けたという伝承が聞かれた⁷⁾。山車の形態は、七重の布団屋根を持ち高欄に掛け布団を載せる「宇摩型」で、東予または西讃に見られる太鼓台と同系統である。すなわち、三好市の太鼓台は元から県内に存在したものではなく、近世末以降、主に明治・大正期に東予ないしは西讃から移入して定着した「外来文化」なのである。あらためて愛媛県・香川県の山車も含め広域的視点から山車の分布を捉え直すと、三好市池田町・山城町は、県境を越えた四国の「太鼓台文化圏」の一角をなしていると言える。

4. おわりに

三好市の祭礼山車について、悉皆調査の結果を基にその特色を分析してきた。三好市においては、「だんじり文化」の基層の上に県境を越える「太鼓台文化」の影響が重なり、「だんじり」と「太鼓台」を核とする独自の地域性を持つ山車文化が形成されたこと、三野町東部は「だんじり文化圏」「屋台文化圏」の接合地域であることを明らかにした。川舟型の船だんじりの事例を含め、三好市の地理的環境が当地の山車文化の形成に大きな影響を与えていていると言える。

注

- 1) 池田町史編纂委員会（1983）、近藤（1960）、新編三野町史編纂委員会（2005）、高橋（1998）、高橋（2007）、高橋（2009）など。
- 2) 高橋（2008）、223-226頁。
- 3) 高橋（2015）、158-159頁。
- 4) 高橋（2017）、5頁。
- 5) 池田町史編纂委員会（1983）、532-533頁。
- 6) 大本（2002）、12頁。
- 7) 一部に新調のちょうさも見られる。山城町の大日雲神社のちょうさは明治31年に新調された（近藤（1960）、1342頁）。池田町馬路の境宮神社のちょうさは明治元年頃に讃岐から中古を購入、明治33年頃に讃岐から新調太鼓を購入したという。

文献

- 池田町史編纂委員会編（1983）『池田町史 下巻』池田町
大本敬久（2002）「愛媛県の祭礼山車」『四国民俗』35、3-25頁
近藤辰郎編（1960）『山城谷村史』山城町役場
新編三野町史編纂委員会編（2005）『新編三野町史』三野町
高橋晋一（1998）「井内谷三社宮の祭礼について」『阿波学会紀要』44、241-247頁
高橋晋一（2007）「三好市『旧東祖谷山村』の神社祭礼」『阿波学会紀要』53、133-178頁
高橋晋一（2008）「徳島県における祭礼山車の展開—文化交流史の視点から」『歴史に見る四国—その内と外と』雄山閣、217-240頁
高橋晋一（2009）「県西県境地域の神社祭礼(2) 三好市池田町・山間地域の事例」『徳島地域文化研究』7、173-195頁
高橋晋一（2015）「阿南市の祭礼山車と囃子」『阿波学会紀要』60、157-162頁
高橋晋一（2017）「川舟型だんじりと河川文化—徳島県三好市池田町・和霊神社の事例より」『四国民俗』48、1-12頁

表 1 三好市の山車一覧

No	神社名	所在地	山車
1	八幡神社	三好市三野町清水1077	だんじり 1台 (天神社と兼用, 1年交代で出る), よいやしょ 1台 (廃絶)
2	天神社	三好市三野町清水1346	だんじり 1台 (八幡神社と兼用, 1年交代で出る)
3	下加茂神社	三好市三野町加茂野宮492-2	だんじり 1台 (休止)
4	熊野十二柱神社	三好市三野町加茂野宮1340	だんじり 1台 (休止)
5	勢力神社	三好市三野町芝生87	だんじり 1台
6	武大神社	三好市三野町芝生1241	だんじり 1台
7	松尾神社	三好市三野町太刀野997	だんじり 2台 (休止) (太刀野東・西から集結)
8	八坂神社	三好市三野町太刀野80 (東)	だんじり 1台 (休止)
9	日吉神社	三好市三野町太刀野1934 (西)	だんじり 1台 (休止)
10	出羽神社	三好市三野町太刀野山461	だんじり 1台 (休止)
11	三所神社	三好市三野町太刀野山1774	だんじり 1台 (休止)
12	奥宮神社	三好市三野町太刀野山2241	だんじり 1台 (休止)
13	川花神社	三好市三野町太刀野山3980	だんじり 1台 (休止)
14	八幡神社	三好市池田町州津宮久保839	だんじり 3台 (東州津・西州津・敷地 (東みよし町) から集結)
15	千尋衣神社	三好市池田町州津井閔115 (西州津)	だんじり 1台
16	日吉神社	三好市池田町州津西久保364-2 (東州津)	だんじり 1台
17	諏訪神社	三好市池田町西山東内477 (洞草)	だんじり 1台 (休止)
18	鎌神社	三好市池田町西山堀3689-2 (西山)	ちょうさ 1台 (休止)
19	諏訪神社	三好市池田町西山古野2382 (入体)	だんじり 1台 (休止)
20	杉尾神社	三好市池田町ハヤシ1264	だんじり 1台 (休止)
21	八幡神社	三好市池田町イタノ3317	ちょうさ 1台 (廃絶)
22	丸山神社	三好市池田町ウエノ2790	だんじり 1台
23	医家神社	三好市池田町マチ2286	だんじり 5台 (廃絶), 船だんじり 1台 (休止) (諏訪神社と同じ)
24	諏訪神社	三好市池田町ウエノ2907-3	だんじり 5台 (廃絶), 船だんじり 1台 (休止) (医家神社と同じ)
25	八幡神社	三好市池田町シニヤマ3582	ちょうさ 1台 (廃絶)
26	皇子神社	三好市池田町ヤマダ461-1	ちょうさ 1台 (廃絶), だんじり 1台 (廃絶) - だんじりは医家神社・諏訪神社祭礼にも出していた
27	和霊神社	三好市池田町新地	船だんじり 1台 (休止) - 医家神社・諏訪神社祭礼に出ていた
28	八幡神社	三好市池田町白地本名1036-2	ちょうさ 1台 (廃絶)
29	四所神社	三好市池田町白地ウマバ495	ちょうさ 1台
30	三社神社	三好市池田町白地井ノ久保1165	ちょうさ 1台 (休止)
31	境宮神社	三好市池田町馬路宮の下41	ちょうさ 1台
32	佐野神社	三好市池田町佐野森常462	ちょうさ (太鼓台) 1台, 子供太鼓 1台
33	一宮神社	三好市池田町中西フロノタニ1396	だんじり 1台, ちょうさ (千代差) 1台
34	二宮神社	三好市池田町大利宮平蔭84	だんじり 1台 (休止)
35	三所神社	三好市池田町川崎山ノ上112	ちょうさ (千代差) 1台 (廃絶)
36	八幡神社	三好市池田町漆川坊岡837	だんじり 1台 (休止)
37	四所神社	三好市山城町大月宮の東70	ちょうさ (太鼓) 1台 (かつて 5台)
38	伊邪那岐神社	三好市山城町下川字東449	ちょうさ (太鼓) 1台 (休止)
39	大日靈神社	三好市山城町光兼名字光兼558	ちょうさ (太鼓) 1台 (休止)
40	飯裏神社	三好市井川町辻字野津後75	だんじり 1台 (休止)
41	八幡神社	三好市井川町辻字八幡102	だんじり 2台 (休止)
42	武大神社	三好市井川町井ノ内谷字黒松1042	だんじり 2台 (馬岡新田神社と兼用)
43	馬岡新田神社	三好市井川町井ノ内谷字馬場の西22	だんじり 2台 (武大神社と兼用)
44	三処神社	三好市東祖谷落合175	だんじり 1台
45	八幡神社	三好市東祖谷栗枝渡144	だんじり 1台
46	三社神社	三好市東祖谷釣井253	だんじり 1台 (休止)
47	三体神社	三好市東祖谷西山401	だんじり 1台 (休止)
48	平崎神社	三好市西祖谷山村一宇357	だんじり 1台

(注)「山車」欄の表記は現地での呼称を重視して記載した。太鼓台に関しては、「ちょうさ」「千代差」「太鼓台」「太鼓」などと地域により呼び方が異なる場合がある。

表 2 徳島県における祭礼山車の形態分類

山車の種別	地域での呼称	形態	県内における主な分布地域
だんじり	だんじり	本体下部に車輪が付いており曳く	県西, 県南, 県北 (吉野川下流域)
船型だんじり	船だんじり, 関船	本体下部に車輪が付いており曳く, 船型	県東海岸地域
山鉾	大山, 小山	本体下部に車輪が付いており曳く, 屋根の上部に「鉾」が高く突き出す	県南 (海部郡海陽町久保1カ所のみ)
屋台	屋台	車輪がなく担ぐ, 屋根は一般に破風造	県北 (吉野川中下流域)
小型屋台	よいやしょ, させー, あぱれ	車輪がなく担ぐ, 屋台より小型で簡素な造り	県北 (吉野川中下流域)
太鼓台	ちょうさ, 太鼓, 太鼓台, 太鼓屋台, かき太鼓	車輪がなく担ぐ, 座布団を重ねたような屋根	県西 (三好市の一部), 県南 (海部郡の一部)